

(本文)

拝呈

時下酷暑難堪御座候処

御各位御変リ無ク御勇健被

為在候哉 其後御疎濶ニ打過

失礼仕候段平ニ御容赦被下

度候 次ニ小生儀無事本月二

日表記ノ隊へ転隊シ 当隊医

務室ト小倉陸軍予備病院へ

隔日勤務致居候間 乍他事

御放念被下度候

右予備病院ハ元ノ衛戍病院

ヲ加ヘ北方諫兵場内ニ新築シ

木片葺ニテ横三間長サ廿五

間ノモノ四十八戸 一戸ニ収容定員

四十五名 当時入院治療中ノ者

凡ソ尅千八百余名 内八分ハ戦地ヨリ

後送ノ者他ハ内地第十二師団

管内各隊ノ者。後送患者ニシテ

片眼ヨリ後頭部ニ 腹部。胸

部ヨリ背部ニ 首部或ハ上肢下

肢ニ彈丸貫通シ 三四ヶ所モ受ケタル(切断シタル) 重傷

者有之候得共 只僅ニテ(経傷共ニ) 凡ソ

四百名余 他ハ病者ニテ内脚氣患者
最モ多ク 又之ニ症ル者ハ輻重論卒
ニ多ク同病中ノ七分ヲシメ居候

院内ニハ娯樂所ヲ設ケ 囲碁。将義^(世)。輪投ゲ。大弓場アリテ患者ニ樂ヲ

アタエアリ

又酒保アリテ患者ニ日用品。飲食物ヲ壳渡シアリ 又発音機ノ寄贈三個
外テ遊ヒモノ色々有之候

時候柄ニテ病者非常ニ増加シ続々

後送被致居候(後送患者ハ道中ノ勞ニ堪エル者 堪エザルモノハ戦地病

院ニ収容)

為ニ戦地衛生部ノ欠員ヲ生シ 時々出發致シ

居候 補充看護卒ハ小生等同輩ノ内

此度分遣セラレタル砲兵。輻重兵

隊ヨリ十名丈ケ補充セラレ本月九日

出發致候間 私等モ不遠被命

候事ト覚悟罷在候

前月応召セラレタル平野倉治

氏外諸氏ハ入隊ノ際直チニ出征被

致トノ説有之候処 未ダ当地歩

兵隊ニテ演習致シ居ラレ候

転隊前ハ同管内ニテ朝夜

面談致シ樂ミ居候処 只今ハ

日曜ニテモ都合ニテハ面会モ出来
不申候用ニ相成候

御存ジ有之カハ不計候得共

木下秀男氏ハ二週間余前

三等主計（少尉相当官）ニ昇進

被致候 先ハ御伺ヒ旁々如斯

御座候 尚今後御自愛專

一二御壮健ノ程奉祈上候

頓首

八月十五日

榑崎金之助

中里敬照様

山中鋭治郎様

平野徳太様

坂本礼吉様

堤 博生様

牛草音蔵様

梅野角太郎氏ハ当地病院ニテ養生致シ居ラレ候処

去ル六月廿日頃熊本病院へ転院被致候

石崎米吉氏ハ同院治療中ノ処全快退院 当地輜重

隊ニテ諫